

年頭所感

太鼓岩より宮之浦岳(1936m)を望む

森林の有する多面的機能について、改めてその恩恵について



屋久島森林管理署
署長 樋口 浩

明けましておめでとう
ございます。
昨年、皆さまから屋久島森林管理署にいただきました御支援・御協力に改めて感謝申し上げます。
さて、昨年は台風襲来

による山地災害など甚大な災害が発生しました。自然の脅威は、人知を越え、時に予想を遙かに上回る規模で発生します。東日本大震災では、多くの海岸林が消失しましたが、海岸林の役割は、①津波抵抗の働きと津波流勢の減衰、②漂着物補足機能による後背保全対象の被害軽減③飛砂補足による後背地の保全と砂丘形成の自然堤防効果等が期待されて

います。
以前、森林の多面的機能の評価額が、70兆円以上と計算されたことがありまます。しかし、このほかの生態系サービス、遺産子保全等生物多様性保全や、文化的機能、そして、物質生産機能(木材等森林産物全て)などは、いずれも評価に入っていませんでした。
国有林は、平成25年度に一般会計化して、2年目を過ぎようとしてい

発足百年を迎えた保護林制度



屋久島森林生態系保全センター
所長 前田 三文

明けましておめでとう
ございます。
昨年は屋久島森林生態系保全センターの業務に格別の御支援・御協力を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、国有林では、学術
の研究、貴重な動植物の保護等を目的として、自然公園法の前身である国立公園法(昭和6年)や、文化財保護法の前身である史跡名勝天然記念物法(大正8年)の制定に先駆け、大正4年(1915年)に保護林制度を発足させ、その適切な保全・管理に努めてきました。

この保護林制度が発足して今年で百年を迎えます。
大正4年に設定された

保護林は七座山(秋田県)、白髪山(高知県)、霧島(宮崎県)の3つの保護林で、屋久島保護林は大正12年(1923年)に設定されています。
保護林のうち広大な面積をもつ知床、白神、小笠原諸島、屋久島は世界自然遺産登録地にも指定されています。
昨年はヤクシマシヤクナゲが20年ぶりとも50年ぶりともいわれる開花を見せました。この屋久

島の素晴らしい山岳景観におそらく百年前の人々も同じように感銘を受けたのではないのでしょうか。この連綿と続く山への思いを胸に本年も森林生態系の保全に向けて業務を遂行していきたいと考えています。
本年も皆さまにとって素晴らしい年となることを御祈念申し上げます、年頭の挨拶とさせていただきます。

屋久島生態系モニタリング

韓国研究者の視察

韓国西南に位置する済州島にハルラサン(漢拏山)を中心とした済州世界自然遺産登録地があります。この地で世界自然遺産地域に関する研究を行っているハルラサン研究院の一行5人が



図面を広げて説明する樋口署長

12月10日屋久島森林生態系保全センターを来訪しました。一行は長期生態系モニタリング調査に関心を持っており「屋久島世界自然遺産地域の視察」に合わせて当センターを訪ねたものです。

当日は屋久島森林管理署と屋久島森林生態系保全センターが対応。樋口浩署長から屋久島の植生について地史的な特性や気象条件など、氷河期まで遡った解説が行われました。

意見交換では、済州島においてもマツクイムシ被害に悩まされておられ、屋久島ではどのような防除対策が行われているかなどの質問が出されました。世界自然遺産地域で仕事を行うもの同士として共通する課題もあり、短い時間でしたが、有意義な意見交換となりました。

意見交換では、済州島においてもマツクイムシ被害に悩まされておられ、屋久島ではどのような防除対策が行われているかなどの質問が出されました。世界自然遺産地域で仕事を行うもの同士として共通する課題もあり、短い時間でしたが、有意義な意見交換となりました。

屋久島東部(愛子岳)の植生垂直分布調査(平成23年度/2011年度)

●標高1000mプロット
[優占種の変化]

階層区分	2001年	2006年	2011年
高木層(6.0m以上)	ヤマグルマ	ヤマグルマ	ヤマグルマ
亜高木層(3.0~6.0m)	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
低木層(1.2~3.0m)	イヌガシ	イヌガシ	ハイノキ
草本層(1.2m未満)	ハイノキ	ホコザキベニシダ	ハイノキ

低木層のイヌガシとハイノキの本数はどちらも2006年~2011年にかけて減少しているが、イヌガシの方が大きく減少したため、ハイノキが優占するという結果になった。

[直径階別本数の変化]

2001年から2011年にかけて胸高直径1~9cmの本数が増加傾向にあり、それ以外の階層は大きな変化は見られなかった。このことから、現在森林は成長段階にあると考えられる。胸高直径30cm以上の本数が極端に少ないのは台風による暴風などの影響で風倒が起きていることが考えられ、高木の生育に影響を与えていると思われる。

[草本層指標種の出現と消滅]※指標種はNo.234号に掲載。

消滅した種(嗜好性)	消滅した種(不嗜好性)	出現した不嗜好性種
	ヒメジャラ(冷)	コウヤコケシノブ
		ホンバタバ
		ホンバナコギリシダ

屋久島の植物



ハゼノキ
(ウルシ科)

関東以西に分布する落葉高木。屋久島では低地や低山地に見られる。低地のもは12月から1月に紅葉する。ハゼは植締(はにしめ)：植は染色に使った陶器)がハジに転訛したことか。美しく紅葉した葉を染色と形容した。果実から、和ろうそくの原料のロウを採集していた。

台湾調査団が訪問

12月16日、台湾国家発展委員会の離島観光調査団の一行6人が屋久島森林生態系保全センター



センター玄関前で記念撮影

ターを来訪しました。

台湾国家発展委員会は台湾における経済政策の司令塔として、経済や社会、産業、人的資源の発展などの政策立案を行う重要な組織で、今回は離島観光に関する調査を主目的に来島したもの。当調査団は、森林生態系の保全についても高い関心をもたれており今回当センターへの訪問となったものです。

一行は屋久島観光協会の榎光徳事務局長の案内で当センターを訪れ前田三文所長から業務概要について説明を受け、その後意見交換に入りました。

意見交換は、森林資源の把握方法に関する技術的な話から林野庁と環境省の役割分担などの行政関係の話題など、多岐にわたりました。

森林資源の活用や林野行政と環境行政の調整など台湾と日本、共通の課題もあり有意義な意見交換となりました。

昨年の主な取組

○縄文杉のデッキ検討会

3月26日、縄文杉デッキの撤去に伴う代替デッキの設置について、現地検討会が行われました。

○シヤクナゲパトロール

シヤクナゲの開花期は登山者が多くなることから、登山者へのマナー指導などを5月26日~6月6日の間行いました。

○ヤクタネゴヨウ巨木訪ねる 〜照葉樹林サミットプレイベント〜

5月25日「第2回国際照葉樹林サミットin屋久島」のプレイベントとしてヤクタネゴヨウ植物群落保護林の現地見学会を行いました。

○照葉樹林サミット

6月7日「第2回国際照葉樹林サミットin屋久島」が離島開発総合センターで行われ、当センターでは写真パネルを展示し国有林の取り組みを紹介しました。